

受領No.1462

急性骨髄性白血病に対する新規創薬標的の探索

代表研究者 檜井 栄一 岐阜薬科大学 教授

Identification of novel drug targets for AML

Representative Eiichi Hinoi, Gifu pharmaceutical University, Professor



研究概要

急性骨髄性白血病(AML)は、骨髄系造血細胞の異常増殖により引き起こされる造血器腫瘍であり、骨髄微小環境に潜むAML幹細胞(がん幹細胞)が治療抵抗性を左右することも報告されており、あらたな診断・治療標的の同定と根本治療薬や予防薬(疾患修飾薬)の開発が希求されている。近年、AMLの発症進展過程において、「骨髄微小環境における骨芽細胞性ニッチとAML幹細胞の細胞間連関」が重要な役割を果たすことが示されている。しかしながら、この細胞間連関がどのようにAMLの発症進展に関与しているのかについては、十分明らかになっておらず、「がん微小環境におけるニッチ細胞とがん幹細胞の制御システム連関」を標的としたAML治療戦略は進んでいない。骨芽細胞には、骨形成の機能以外にも多様な機能が備わっていることが報告されている。本研究では、ニッチ細胞側のシグナルに焦点を当て、「AML悪性化進展過程におけるがん微小環境の生体制御システム連関」の解明を目指す。本研究遂行により、ニッチ細胞側に立脚した個別化医療・先制医療の確立だけでなく、「ニッチ細胞とがん幹細胞の細胞間連関」を標的としたAML根本治療薬の開発への展開が期待される。